

目指す学校像	生徒一人ひとりの可能性を伸ばし、豊かな自己実現を促す学校
--------	------------------------------

重点目標	1 学びの価値を見出し、生き生きと学習する生徒を育成する。 2 「安全・安心」への意識やスキルを高め、体制を強化する。 3 コミュニティ・スクール実施初年度として、学校運営協議会において理念等を共有する。 4 「教師が教える授業」から「生徒が主体的に学ぶ授業」への転換を図る。
------	---

※重点目標は4つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

学 校 自 己 評 価		年 度 評 価		学 校 運 営 協 議 会 による 評 価				
年 度 目 標		年 度 評 価		実施日令和5年2月17日				
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校運営協議会からの意見・要望・評価等
1	(現状) ○全国学力学習状況調査の生徒質問紙において、約9割が全国の値を上回り、おおむね良好な結果である。 ○自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表することに意欲的な生徒が多い。 ○全国学力学習状況調査において、「各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめたり、思いや考えをもとに新しいものを作り出したりする活動を行っていましたか」という質問に対し、肯定的に答えた生徒の割合が全国平均を下回った。 (課題) ○学習の定着や取組に個人差が見られる。 ○学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめたり、思いや考えをもとに実社会や実生活との関わりを考え、新しいものを作り出したりすることが苦手な生徒が多い。	・「主体的・対話的で深い学び」「個別最適な学び」の育成に向けた情報端末の活用、授業の工夫・改善 ・実社会や実生活との関わりを実感できる「STEAMS TIME」の構築	①「さいたま市『アクティブ・ラーニング』型授業を積極的にを行い、授業の中で自分の考えをまとめたり、他者の意見を取り入れ修正したりしながら試行錯誤を繰り返し、思考力・判断力・表現力を育成する。 ②全校を挙げての家庭学習「実のチャレ」の充実を図る。自主学習型コンテンツを利用するなどして、個々の学習状況を把握・分析し、組織的な支援や相談を行う。 ③協働学習を充実させるための ICT の効果的な活用方法を学ぶ研修を学期に1回行い、指導力を高める。	①ICT も活用し、自分の考えをまとめたり、他者の意見を聞いて考えを深めたりして試行錯誤しながら答えを導き出すなど「さいたま市『アクティブ・ラーニング』型授業」ができたか。 ②生徒が自らの学習を振り返り、自己の課題を明確に捉え、家庭学習を含め、自らの学習を調整しながら粘り強く学習に取り組むことができたか。 ③学期に1回行った ICT の効果的な活用方法を学ぶ研修を、実際の授業で活かすことができたか。	①授業において ICT を積極的に活用し、「よい授業」アンケートの「ICT 活用」の項目において、89%の教員が目標値を上回った。また、「アクティブ・ラーニング」に該当する項目においても、市の平均を 1.0 ポイント上回る結果となった。 ②「実のチャレ」に意欲的に取り組む生徒が多くみられたもの、生徒アンケートによる「家庭学習への取組」の項目への肯定的な回答の割合は66%となった。 ③全体研修としてはプログラミング研修を実施し、その他は個々の教員のニーズに応じて ICT 支援員のサポートを受けスキルアップを行った。	B	タブレットについて、授業における日常的な使用は定着しているが、さらに効果的な使用へと発展させたい。タブレットを使うからこそ深まる指導内容や指導の在り方、授業以外の教育活動における活用、個別最適な家庭学習への使用など研究を深めるとともに、教員の技能向上を図る。	・ICT機器を活用した授業は将来的なことを考えると必要で大切なものであるが、生徒と教師の間関係が希薄にならないようにする必要がある。 ・タブレット端末の扱いが苦手な生徒に対するフォローをしっかりとしてもらいたい。 ・「実のチャレ」の取組は非常に良い。さらに充実させるための工夫をしたい。 ・ICT機器を活用した授業の大切さは理解できる。しかし、書いて学ぶ学習も必要であるため、従来の学習方法とICT機器を活用した学習方法をどのように組み合わせれば有効な教育効果が得られるか研究が必要である。
2	(現状) ○7割以上の生徒が自転車で通学しており、登校中の事故により救急搬送されるケースもある。(体の安全) ○令和3年度学校評価生徒アンケートにおける「楽しく学校生活を送っていますか。」の項目について肯定的な回答の割合が97%であった。(心の安全) (課題) ○交通量が多い、防犯上の危険があるなど、安全な登下校は喫緊の課題である。 ○予測困難な社会情勢やコロナ禍における不透明感がある中で、生徒たちが安全・安心に、明るい学校生活を送ることができる体制づくりが求められる。	・安全意識と行動スキルを高めるための、生徒が主体的に取り組む安全に係る教育活動の実践 ・生徒一人ひとりの気持ちに寄り添う校内体制の充実	①生徒会組織等を軸とし、生徒と教員が意見を出し合い、安全な登下校ができるようにすることを目的とした取組を実施する。 ②「STEAMS TIME」の第1学年において、自分自身が美園地区の安全・安心をつくる一員であることの自覚を高める。	①生徒会等の活動において、生徒が主体となって「安全・安心」に係る取組が実施された。 ②第1学年「STEAMS TIME」PBLの振り返りにおいて、生徒の安全・安心の意識が高まったか。	①安全委員会が主体的に考え、安全な登下校を目指して、生徒会朝礼などで注意喚起を行った。 ②1学年の「STEAMS TIME」で地域の安全・安心(交通・防犯・災害等)について調査し、実生活に活かせるものを新聞にまとめ、意識を高めた。	B	自転車通学者が全校生徒の7割以上を占める本校において、安全・安心に対する実践的な力を身に付けさせることは喫緊の課題である。そのため、生徒が自分事としてとらえ、主体的に考え、実践できるような指導を工夫する。また、社会をつくる一員であるという、内面的な指導についても、教職員の共通理解のもと推進する。	・自転車事故を「0」にすることは難しいが、「0」に近づけることはできる。安全な登下校について自分事として考える場面を作ってもらいたい。 ・学校としての安全教育への発信を積極的に行っていく。 ・小学校と連携した交通安全教育が必要ではないか。 ・自転車は車両であり、加害者となる可能性が十分あることを理解させたい。 ・通学路の見直しは適宜行うべきである。
3	(現状) ○昨年度は準備校として、第1回の会議において「学校運営協議会」の在り方等について説明するとともに、本校の現状や課題について共有した。第2回の会議でテーマ等を決定する予定であったが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、書面等でご意見を頂戴し、「安全・安心」に決定した。 (課題) ○それぞれの立場から見える現状や課題等について、今年度から始まる熟議をとおして明確化し、今後の通学路についても視野に入れた方向性を共に見出していくことが求められる。	・本校の「安全・安心」に係る現状や課題の共有 ・生徒増が見込まれる今後を見据えた通学路について方向性の検討	①本校の安全・安心に係る課題や指導等について学校運営協議会で説明するとともに、熟議における各委員との話し合いを通して、明確化する。 ②「安全・安心」に係る教育活動を積極的に公開する。	①本校の「安全・安心」に係る課題や指導等について共通理解が図られ、熟議を深めることができたか。 ②「安全・安心」に係る教育活動を公開することができたか。	①学校運営協議会で本校の「安全・安心」に向けた熟議を行った。通学の安全の確保に向けて、運営協議会として警察へ要望書を提出することができた。 ②学校ホームページに学校運営協議会の内容をアップし、学校だよりにて生徒の安全・安心に係る記事を掲載した。	B	学校運営協議会では、引き続き交通安全を中心に熟議を行い、課題を明確にするるとともに、解決に向けた協議を深めていきたい。 また、次年度こそは、生徒が実際に活動しているところを公開したい。	・学校運営協議会はこれまでの評議員会と比べ熟議ができるので理念を共有しやすい。 ・アプリ等を利用して、PTAとも連携し、現状や課題を共有できるとよい。
4	(現状) ○令和3年度は、さいたま市教育委員会の研究委嘱を受け、「生命を大切にすることを育む教科横断的な道徳教育の実践」をテーマとして道徳教育について発表を行った。 ○今年度は、前年度の研究を踏まえ、「主体的・対話的で深い学びを通じた教科等横断的な探求的学習指導の研究～実社会で新しい価値を生み出すことのできる生徒の育成～」を研究テーマとした。 (課題) ○新学習指導要領に基づき、授業改善や ICT の活用等を行っているが、実践の頻度や技能には教員間で個人差が見られる。	・今年度新設の「STEAMS TIME」における指導と評価の系統性等の確立 ・ICT の活用能力の向上 ・「教師が教える授業」から「生徒が主体的に学ぶ授業」への転換	①外部講師を招聘するなどした「STEAMS TIME」の校内研修を実施する。 ②各学年の「STEAMS TIME」の授業を互いに参観し合うことを通じて本校における系統性について研修を深める。 ③協働学習を充実させるための ICT の効果的な活用方法を学ぶ研修を学期に1回行い、指導力を高める。(再掲) ④各教科において「さいたま市『アクティブ・ラーニング』型授業」を推進する。	①校内研修を通して、「STEAMS TIME」についての理解が深まったか。 ②他学年の「STEAMS TIME」を参観し、系統性や次年度への見通しをもつことができたか。 ③学期に1回行った ICT の効果的な活用方法を学ぶ研修を、実際の授業で活かすことができたか。(再掲) ④「よい授業」の因子4 (児童生徒の活動) や学校評価アンケート(教職員)のアクティブ・ラーニングについての評価項目が向上したか。	①外部講師を招聘して「STEAMS TIME」の校内研修を実施することで、目指す方向性や具体的な取組等について理解を深めることができた。 ②3年生の取組に全校で参加したり、校内研修で教員がグループ協議したりすることを通して、見通しを持つことができた。 ③同上 ④学校評価では ICT 機器を活用した「さいたま市『アクティブ・ラーニング』型授業」について「達成できた」、「概ね達成できた」の評価は100%であった。	A	新学習指導要領の趣旨を踏まえ、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、各教員が各教科における見方・考え方を一層明確にして指導に当たる必要がある。また、ICTを効果的に使用し、「STEAMS TIME」を中心とした教科等横断的な視点に立った探究的な学びや、アクティブ・ラーニング型授業、個別最適な学びの推進に向け、研修を深める。	・自分が身に付けた考えを発表する場(表現力)を積極的に作り、鍛えることで能動的(主体的)な学習につながる。説明(表現)するためには理解していることが必要であるため、主体性を育てるために表現力を磨く指導を充実させてほしい。 ・教科の授業で主体的に学ぶためには、予習させる取組も必要ではないか。 ・主体的な学びを推進するためには教師の力量を高めることも必要となる。

